

甲斐の金山から

平成30年10月7日 第85号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

平成最後の夏のピンナップ



総勢約50名 こども金山探険隊



砂金掘り大会三二2018に120名の参加者!

私がブログで博物館の周りの 自然について発信している理由^{わけ}

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

エス・エヌ・エス【SNS】(social networking service) インターネット上の会員制サービスの一種。友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や、新たな人間関係を構築する場を提供する。企業や政府機関でも情報発信などに活用される。(『広辞苑』第七版による)

このところテレビニュースなどにもこの語が出てくることがしばしばあります。ツイッターだとかフェイスブックだとか、さらに色々とお出回っているようです。こうしたことを知らない時代で乗り遅れているとレッテルを貼られてしまいそうだなと想うこともしばしばです。

わが湯之奥金山博物館でも、身延町立ですから身延町の公式ホームページの下位ブランチャの位置づけで情報発信が進められていますが、さらに博物館の人気マスコットキャラクター「もーん父さん」を主役として、ツイッターやフェイスブックでの情報発信もなされ、冒頭にかかげたSNSを盛んに使いこなしているのです。

いわゆる“ゆるキャラ”に湯之奥金山博物館の広報大使となることを委ね、親しみやすい形で博物館の魅力や様々な催し等々について情報提供するものですが、これは、谷口初代館長が常々口にされていた「敷居の低い博物館を目指して」を形にする一つの手段なのであります。

谷口初代館長といえば、『谷口一夫の富士川流域王国日記』というブログを手がけられていらっしゃいました。記事更新こそは止まっていますが、まだ中身を閲覧することは可能となっていますので、過去形ではありません。

いま“ブログ”というSNSの一形態に触れましたが、これはもともとウェブ(web)すなわちホームページ発信のログ(log: コンピューターシステム上

の情報入出力の記録のこと)からきた造語ですが、何年何月何日の何時何分にどんな入力をしたかというwebサイト運営の記録簿が一人歩きし、SNSの一形態となったもので、インターネット時代の比較的初期からあるものですが、最近はやや下火傾向にあるようです。

さて、今回の本題に入りますが、このブログの形式による湯之奥金山博物館とその周辺の情報発信手段として、『二代目館長日記』というのがあるのでご存知でしょうか。

もうすでに3年目(正確に言うともう少し前からネット上には別名称で存在していて、このタイトルになったのが3年目)に入ったわけですが、まだ知る人ぞ知るです。とはいえ、谷口初代館長がなされていたのをなぞるようにして、もうまるく2年以上経ったことには、ちょっとした感慨があるのも事実です。

そのブログ『二代目館長日記』のURLは、
<https://plaza.rakuten.co.jp/bnvn06/>
となっています。

内容は、題名どおり、湯之奥金山博物館の二代目の館長が日常の博物館活動のこと、史跡「中山金山」などの金山遺跡の調査研究や活用などに関わることを日記風に公開しているものですが、現在アップされている千件近い記事のカテゴリ別を見ると、「館のまわりで自然観察」というカテゴリが最多で、全体の約三分の一を占めています。

これは、湯之奥金山博物館の周辺で見られる草木や鳥、チョウやトンボなどの昆虫、その他に観察の目を注いでいるものなのです。では、金山の歴史などに関する本命を押しつけて、二代目館長がそうしたものを多く取り上げているのは、なぜなのでしょう。

金そのものも本来、自然物でありますし、金山というも自然のなせる業が歴史の中で人の社会と結び付いたものです。自然と人との結びつきの現れの一つと捉えることができ、そうしたことから金山に迫るためには、自然を見る目が確かでないダメではないか。これが一つの考えであります。他にもありまして、博物館には数多くの引き出しが必要ではないか、利用者が様々な関心を持って引き出しを開けたときに、一定の回答ないしは考え方やそのためのバックデータが用意されていなければならないのではないか、との想いがあるからです。

ということで、博物館に出勤した日には、忙しく働く博物館スタッフをよそ目に、この花がとか、こんな虫がとか、あれこれ観察し回っている二代目館長がいるのであります。

そして観察するだけに飽き足らず、ブログによって日々、絵日記風に発信しているのですが、それをご覧になった方の中に「金山のこともあるし、自然も豊かみたい…、行ってみる?」という感じに受けとめていただくことが出来、少しでも多くのご来館につながればいいな、と密かに思っているところがあるのでございます。

出月館長の自由研究プロジェクト2018 “自由研究のタネ”をたくさんまきました

夏休みといえば近年定番の宿題は「自由研究」。博物館や美術館、図書館など、多くの生涯学習施設がこの宿題解決のヒントを提案していますが、山梨県立博物館が中心となって進めている合同プレゼン企画「夏休み自由研究プロジェクト2018」もそのひとつで、当館も毎年「出張砂金採り」で参加しています。



一方、夏休み中、当館独自の自由研究プロ

ジェクトとして館長在館日に合わせた約2週間の自由研究相談コーナーには、親子、またはお祖母ちゃんと孫という組み合わせで、昨年の初開催よりも多くのお問合せをいただき、自由研究のタネを探しに館に足を運んでいただきました。館での相談コーナーの一方、ネット上の館長ブログ「二代目館長日記」では折々に、小さな自然観察ネタを掲載、自由研究のヒントを発信してきました。

自由研究というと、難しく感じるかもしれませんが、小さなタネを見つけて、大きく育てていくことが大切で、例えば、植物の名前一つ取り上げて、いつ、だれがそんな名前を付けたのかということだけでも研究テーマになり得るように、どこにでもある日常や自然の中に、たくさん材料やテーマがあり、それは“自分の好きなこと”でいいのです。要は視点をどこにおくか。それだけで独創性のある自由研究ができます。

夏休みが終わっても館長ブログでは継続的に自然観察を掲載しているのは、そんな意図もあるから。夏休みが終わったらおしまいなのではなく、いつでも何らか観察眼をもち、その感覚や感性を鈍らせないことが、自由研究に悩まない一番のコツ。そんな意識を持っていれば、自由研究のタネが今から育っていきます。その習慣は大人になってからきっと自分の大きな武器にもなっていくことを、学習の中で学んでもらう、そんな手助けをするのも生涯学習施設としての博物館の役割だと意識しながら、これからも企画を発信していきます。

活動報告

久間先生のモノづくり教室「迷路探索ロボットを作ろう」開催

6月24日(日)

少し早い夏休み自由研究の第1弾として開催した「モノづくり教室」。定員8名のところ年齢層幅広く13人のお申し込みをいただき大盛況でした。きめ細かい先生の指導で、何が危ない作業で気をつけなければいけないのか、基本的な心構えや作業、そして、ねじの締め方やパーツの名前など、約3時間の教室の中で、子供たちが初めて知ったこともたくさんあったようです。

その「初めて」の一つが「ガスはんだ」。どうやって熱を伝えるのか、どういう仕組の道具なのか、久間先生からの説明と指導の後、練習で慣れてから、ロボット本体を動かすための重

要なはんだ作業に挑みました。はんだを当てて「1, 2, 3, 4, 5」。はんだが溶け始めて「1, 2, 3」。はんだを離してコテだけ当てて「1, 2, 3」。そんなテンポの作業が、意外に大変だったようですが、少し難しい作業を通して、みんなモノづくりの楽しさを垣間見た様子が伝わってきました。

ロボットが完成し、閉会式の後も久間先生が持ってきてくれたロボットを操作したり、話を聞いたり、それぞれにみんな楽しんでくれました。また、第2弾のモノづくり教室を計画しておりますので、どうぞ、お見逃しなく。



ゴールドフェスタ2018 in 品川グランドホール

6月30日(土)

2012年から始まった金の祭典「ゴールドフェスティバル」。多くの方に「金」の魅力を伝え、関心を深める楽しみながら学び、体感できるイベントとして、バラエティに富んだ内容で構成されていますが、当館は金の町・身延町のPRも兼ね、町観光課とともに第3回から参加しています。その中の第1部講演「金の豆知識&

トリビア・ワンダーゴールド! あなたの知らない“金”の世界」で、トップバッターで小松学芸員が講演発表しましたが、当館がプレゼンする歴史にまつわる金の豆知識といえばやはり「甲州金」。甲州金について常日頃よく聞かれる素朴な疑問について取り上げ、会場からは納得の音が聴かれました。



第10回化学実験教室は「金の豆知識」も教授！

7月15日(日)

開成学園中高の宮本一弘先生が講師を務めてくださる化学実験教室、第10回目を迎えました。記念すべき今回はすべての授業の最後に「金(GOLD)」にまつわる実験もプラスアルファ。例年のごとく今年も各実験とも満員御礼。延べ70人の子供たちが学びました。1時間目は、金の色の秘密について、2時間目は金の性質について、3時間目は「金がなくなる!?」。どの実験もみんな驚きの表情で見えていましたが、なぜ金色に見えるのかは、保護者の皆さんも感心の声を上げていました。「金が溶けてなくなる」実験では子供たちから「もったいなーい！」の声も。本編の実験は、光の不思議を知る実験、そしてペットボトルの中に雲を作る実験や雪を降らせる実験、そして昔なが



らの実験だけど、意外と知らない浮き球実験や浮沈子を作る実験など、わかりやすく丁寧な宮本先生の解説で、みんな身近な化学を理解しました。こうした化学の体験を通して、勉強することが楽しい、いや、楽しい勉強の仕方を子どもたちに知ってもらえる機会になれば、大変喜ばしいことです。

砂金掘り大会台風で中止に！代わって砂金掘り大会ミニを開催！

7月29日(日)

台風12号の影響により大会史上初の中止を決定せざるをえなかった今年の大会でしたが、参加のために、遠方よりすでに現地入りされた方がそのまま帰るのでは余りに申し訳ない。大会の雰囲気や競技を少しでも楽しんでいただけることが出来るならと考え、急きょ、台風が過ぎ去った日曜、非公式ではありますが、午前10時から「砂金掘り大会ミニ2018」を開催いたしました。

博物館脇テント下を競技スペースとし、急ごしらえの変更企画でも開催出来たのは、いつものことながら設営から会場整備や片づけまで、終始力になってくれた博物館応援団Au会の皆様のおかげです。その中で、競技時間は正規10

分のところ7分間に短縮、全選手の砂は通常の男女一般部門の10kg重量バケツのみ。決勝戦では16kg。参加人数は70人くらいだろうという事務局の予想に反してなんと120名の方が集まってくれました。非公式ミニ大会とはいえ、始まればそれは本大会と同様ルール。しかし本大会よりもミニになった分、賞品と賞状もミニになり、入賞者には出月館長よりそれらが手渡されました。

また、台風にも負けずご参加くださった皆さんに、一人でも多くの方に賞を差上げたいということから、今回はあえて一般予選入賞者、決勝戦入賞者を表彰いたしました。ミニ大会入賞者は次の皆さんでした。



★総合優勝	：坂本 雅和
男女一般予選 1位	：中村 軒一、2位：紙中 緑香、3位：木村 伸之
男女一般決勝戦 1位	：坂本 雅和、2位：岩井 一泰、3位：木村 伸之
ジュニア部門 1位	：富田 朱菜、2位：古賀咲津希、3位：大森 俊英
フラットパン部門	：桑形 和樹
マイパンニング皿部門	：井村 智子

(敬称略)

第18回こども金山探険隊

8月11日(土)～12日(日)

今年で18回目の「こども金山探険隊」は、隊員20人に保護者含めて約50人近くの方が参加。天候による中止も一瞬かすめましたが、無事に開催することができました。

1日目の登山では、応援団スタッフに加えて、昭登山岳会、醍醐山を愛する会の皆さんもご同行くださり、即席の足場を作ってくれたり、手を引いてくれたりと本当に助かりましたが、参加者の皆さんも登山中、不安になること

なく「安心」の中で遺跡見学ができたというご意見を多数いただきました。そして2日目は甲州金作り。

この二日間を通して、ご参加くださった皆さんが、「夏休みの一番の思い出になった」と言ってくださったことは大変嬉しく、その言葉は、博物館を動かす力にもなっています。来年もそんな満足度の高いイベントにしていけるよう頑張ります。

おっぱら高山市砂金採り選手権大会

9月16日(日)

9月の3連休に岐阜県高山市で行われた砂金採り選手権大会。今年で6回目となったこの大会は、少しずつ新規の砂金採りファンを広げ、今年も、一般部門予選から上位20名の決勝戦、そしてジュニア部門と、新設の親子ペア部門と3つの部門に、地元の方はもちろん県外から、総勢約50名の方が参加しました。清美地区の豊かな自然と、アットホームな雰囲気の中で、大いに盛り上がった大会ですが、実は、毎年当館も協力させていただき、小松学芸員がオ

ブザーバーとして赴いております。実は、昨年は台風の影響で中止になった経緯もあり、特に今年は無事の開催を願っていたものでした。子どもから大人まで大いにこの競技を楽しみ、参加者からはまた来年も来たいという声がたくさん寄せられました。

7月は湯之奥、9月は高山。この2つの大会は来年も開催予定ですので、是非一度は参加していただき、スポーツ砂金採りの楽しさを知ってください。

39万人有料入館達成！

8月14日(火)

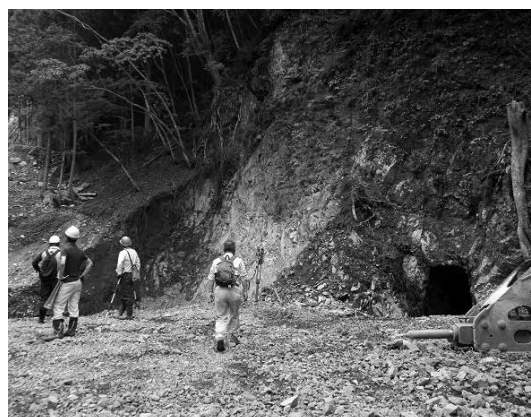
お盆休みでお越しくくださるお客様方の賑わいの中、開館以来の有料入館者39万人目のお客様

様をお迎えすることができました。

この日の朝、この幸運にめぐり当たったのは、東京都あきる野市から砂金採り体験に訪れてくれた岡部さんご家族。そして小学校5年生の修人君が「390000」のチケットを手に入れました。その後、出月館長より花束と記念品を受け取り、ご家族そろって笑顔で記念写真に応じてくださいました。

この記念写真は、館内ミュージアムショップ壁面に歴代のメモリアルフォトと共に飾らせていただきました。





山肌に空いた穴が一体何なのか、鉱山史にかかる情報の収集として、出月館長と小松学芸員が現場を拝見させていただく機会を得て、金山博物館のある身延町の南隣の南部町。内船まで行き、そこから山を越えて天子湖(柿元ダムによる人造ダム湖)の脇を通り、さらに佐野川の上流を目指し、現場に赴きました。

山深い中を1時間の車移動を経た大変な山

の中に、工事作業中に突如現れた穴の正体。おそらく金山坑道であろうと判断できるものでしたが、とはいえ、工事現場の礫が整地されている中で穴以外には何もなく、加えて文献資料なども不足している中で、大きな収穫になりました。この機会を与えていただいた関係の皆さまに厚く感謝申し上げつつ、いずれまとめてお知らせできる機会を作りたいと思います。

2年目の身延町民ウィーク

9月9日(日)～15日(土)

今年も当館では9月9日(日)～15日(土)までの一週間「身延町民感謝ウィーク」を実施しました。身延町民の方であれば、博物館の観覧は無料、砂金採り体験は1割引きでお楽しみいただけるという町民向けサービス企画ですが、この企画の発端は、湯之奥金山博物館は身延町立の生涯学習施設であり、博物館活動はいつも町民とともにあらねばならない、ということを常に意識に置いていることから、では、それをわかりやすくどのように形にしていくか、とい

う答えのひとつとして始めたことにあります。

「これで3回目だけど来るたびに違うことが勉強できるね」と、お見えくださった町民の皆さんは大変喜んでくださいました。下の写真はその時の模様です。

今回の機会においていただけなかった町民の皆さん、そんな思いのバトンを受け取っていただきたく、次年度の町民ウィークには是非おでかけください。



30周年記念講演会 十菱駿武先生

9月8日(土)

平成30年は、湯之奥金山遺跡総合学術調査から30周年を迎えることから、合併記念日に合わせた「町民ウィーク」企画前日に合わせた9月8日(土)に、山梨学院大学客員教授の十菱駿武先生に「湯之奥金山遺跡の考古学的意義とソブリンヒル金山」と題してご講演いただきました。

湯之奥金山遺跡が、伝説の領域から重要な文化遺産に高められた総合学術調査とはいったいどんなものだったか、30年が経過するいま、あらためてその価値を問う講演会として、学術調査の概要、当時のニュース映像を交えて調査時のエピソード等が話されました。特にニュース映像は、30年前の十菱先生や金山博物館初代館長の谷口館長の



若かりし頃の姿が映し出され、聴講者の皆さんは、懐かしい映像に見入っていました。また、調査時のエピソードでは、当時を振り返りながら中山金山に寝泊りをする中で起こった「幽霊を見た話」や「学生が脱走した話」など、聴講者の笑いを誘うお話もしていただきました。

博物館マスコットキャラクター・もーん父さん ゆるキャラさみっとin羽生に今年も出陣!

平成30年11月24日(土)～25日(日)
於 埼玉県羽生水郷公園

今年も埼玉県羽生市でゆるキャラサミット開催!

もーん父さんは今年も博物館と身延町のPRに行っています。山梨キャラたちと合同PRステージも計画中! もーん父さんはじめ、全国からやってくるキャラに会いに、会場にお越しください。



前回の山梨キャラ合同ステージの様子

編集後記

自然災害に見舞われた2018年の夏。博物館年間最大イベントと言える「砂金掘り大会」は台風の影響により大会史上初の中止にせざるをえませんでした。西日本豪雨から程なく北海道胆振東部地震が発生。その後は台風が日本を駆け巡り多くの方が被災され、しかし、一日も早い復旧のために今も皆さんが頑張っている様子が伺えます。

中止となった大会に代わり砂金掘り大会ミニの開催には、たくさんの方のご協力をいただきました。でも、なぜ大人の大人がそこまでするのか、それは、当事者が大会を楽しんでいることはもちろんですが、毎年楽しみにしてくださっている多くの皆さん、そして未来を担う若者たちがこの大会を楽しんでくれるからです。実際に、大学生になっても毎年参加してくれている若者もいます。”学校の中で生徒としての義務”から離れて、自分の選択肢として大会参加を決めているわけですから、イベントを作ってきた大人たちにとっては、それは本当にうれしいことなのです。だから、「楽しい場」を提供できるよう頑張るのです。

博物館ができることは、少しでもみんなに笑顔を与えられる企画の開催。せめて、来館された方ができるだけ居心地の良い時間を過ごして、楽しい思い出を作って、そんな、学習施設としての使命を全うしなければ、と全国の頑張っている方々をみて感じずにはられません。

博物館だより

第85号 平成30年10月7日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん 